



## 2024年11月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2024年4月4日

上場会社名 イーサポートリンク株式会社 上場取引所 東  
コード番号 2493 URL <http://www.e-supportlink.com/>  
代表者 (役職名) 代表取締役会長 兼 CEO (氏名) 堀内 信介  
問合せ先責任者 (役職名) 取締役専務執行役員 (氏名) 深津 弘行 TEL 03-5979-0666  
四半期報告書提出予定日 2024年4月12日 配当支払開始予定日 -  
四半期決算補足説明資料作成の有無： 無  
四半期決算説明会開催の有無： 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2024年11月期第1四半期の連結業績（2023年12月1日～2024年2月29日）

#### (1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年11月期第1四半期	1,280	19.5	51	—	51	—	29	—
2023年11月期第1四半期	1,071	△7.2	△24	—	△25	—	△18	—

(注) 包括利益 2024年11月期第1四半期 40百万円 (-%) 2023年11月期第1四半期 △16百万円 (-%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
2024年11月期第1四半期	円 銭 6.57	円 銭 —
2023年11月期第1四半期	△4.09	—

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2024年11月期第1四半期	5,198	3,422	65.8
2023年11月期	5,568	3,404	61.1

(参考) 自己資本 2024年11月期第1四半期 3,422百万円 2023年11月期 3,404百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年11月期	—	0.00	—	5.00	5.00
2024年11月期	—	—	—	—	—
2024年11月期（予想）	—	0.00	—	5.00	5.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無： 無

### 3. 2024年11月期の連結業績予想（2023年12月1日～2024年11月30日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	5,563	21.9	108	32.7	108	42.6	76	62.3	17.22

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無： 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）： 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 有

(注) 詳細については、四半期決算短信（添付資料）8 ページ「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記（3）四半期連結財務諸表に関する注記事項（四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用）」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2024年11月期 1 Q	4,424,800株	2023年11月期	4,424,800株
② 期末自己株式数	2024年11月期 1 Q	341株	2023年11月期	341株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2024年11月期 1 Q	4,424,459株	2023年11月期 1 Q	4,424,459株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、四半期決算短信（添付資料）3 ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	8
(セグメント情報等)	9
(収益認識関係)	10

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間における我が国経済は、雇用・所得環境が改善する下で、各種政策の効果もあって、景気は緩やかに回復しております。一方、世界的な金融引き締めに伴う影響や中国経済の先行き懸念など海外景気の下振れが我が国の景気を下押しするリスクとなっており、物価上昇、中東地域をめぐる情勢、金融資本市場の変動等に十分に注意する必要があります。

当社グループが事業を展開する生鮮流通業界においては、人口減少等の社会課題を背景にDX（デジタルトランスフォーメーション）への積極的な投資や、企業の統合・再編等の動きが強まっており、事業環境は大きく変化しております。スーパーマーケットを中心とした小売量販店では、長引く物価高から消費者の節約志向を捉え、PB（プライベートブランド）商品の開発や価格訴求力の高い商品の値下げ、高付加価値型PB商品の展開等、各社様々な手法により事業拡大に取り組みながら、AI技術を活用した需給予測や自動発注システム、レジを無くした自動決済システム等への投資、移動販売やEC販売、スマートストアなど、新たな販売形態の展開により、店舗運営の効率化と消費者の多様なニーズへの対応を進めております。また、中間流通業においても、物流の2024年問題からAI技術を活用した配車システム等への投資や、事業者間の提携を踏まえた共同輸送等、配送効率化に取り組む動きがみられます。国内の農業・生産サイドにおいては、生産者の高齢化や異常気象による主要産地からの農産物の供給不足が懸念される中、農作業の効率化・省力化や、食料の安定生産を支援するIoT機器やAI技術への投資により、社会課題への解決に向けた取り組みが進んでおります。

このような環境において、当社グループは、既存事業の収益基盤を維持・拡大しつつ、社会課題の解決に向けて、生鮮分野において環境に配慮した持続可能な流通に貢献する「小商圈」、「地域活性化」を軸としたビジネスの展開に注力しております。これらの取り組みによって、受託業務量やシステムのトランザクション量等、取扱高が増加し、また、新規顧客獲得に向けた積極的な営業活動により、増収増益となりました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は12億80百万円（前年同期比19.5%増）、営業利益は51百万円（前年同期は営業損失24百万円）、経常利益は51百万円（前年同期は経常損失25百万円）、親会社株主に帰属する四半期純利益は29百万円（前年同期は親会社株主に帰属する四半期純損失18百万円）となりました。

セグメント別の経営成績は、以下のとおりです。

#### (オペレーション支援事業)

「輸入青果物サプライチェーン事業」は、新規顧客の獲得に向けて、既存業務の整理を行い、新たな業務受託体制の構築と並行しながら、既存顧客へのサービスの質の維持にも努めた結果、前年同期比で増収増益となりました。

「生鮮MDシステム事業」は、新技術への対応等に関わるシステム投資を行いながら、大手量販店のグループ企業、子会社等への導入を推進し、課金対象となるトランザクション量は堅調に推移いたしました。「青果売場構築支援事業」は、バックオフィス業務の効率化を行いながら、新たなパートナー企業の開拓、並びに導入店舗の拡大を実現いたしました。また、地場野菜の調達支援サービス「es-Marché」は、小売量販店の販売量の増加に伴って、サービス取扱高が増加し、売上は堅調に推移いたしました。

以上の結果、売上高は8億39百万円（前年同期比14.7%増）、セグメント利益は2億81百万円（同25.6%増）となりました。

#### (農業支援事業)

「りんご・国産青果物販売事業」については、令和5年産のりんごが、天候不順などの影響により、前年度に比べて集荷数量を十分に確保できなかったため、品質面も考慮して当初の計画より前倒して出荷を行い、高単価販売に取り組みました。さつまいもについては、新規顧客の獲得に向けて、調達と販売の運営体制を見直したことにより、販売量が堅調に推移いたしました。その他の国産青果物については、優良な生産者の開拓と季節商材の集中的な販売に取り組みました。また、「有機農産物販売事業」については、一部の国産商材が相場安の影響を受ける一方、輸入商材の売上は堅調に推移いたしました。

以上の結果、売上高は4億41百万円（前年同期比29.6%増）、セグメント損失は5百万円（前年同期はセグメント損失21百万円）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

① 資産の部

当第1四半期連結会計期間末における資産の残高は、前連結会計年度末と比べて3億70百万円減少し、51億98百万円（前連結会計年度末比6.7%減）となりました。

内訳としては、流動資産が38億43百万円（同10.5%減）、固定資産が13億54百万円（同6.1%増）となりました。

流動資産の主な減少要因は、現金及び預金が3億45百万円減少したことによるものです。

固定資産の主な増加要因は、ソフトウェア仮勘定が68百万円増加したことによるものです。

② 負債の部

当第1四半期連結会計期間末における負債の残高は、前連結会計年度末と比べて3億88百万円減少し、17億75百万円（同18.0%減）となりました。

内訳としては、流動負債が10億10百万円（同24.2%減）、固定負債が7億65百万円（同7.9%減）となりました。

流動負債の主な減少要因は、買掛金が2億58百万円減少したことによるものです。

固定負債の主な減少要因は、長期借入金が67百万円減少したことによるものです。

③ 純資産の部

当第1四半期連結会計期間末における純資産の残高は、前連結会計年度末と比べて18百万円増加し、34億22百万円（同0.5%増）となりました。

この結果、自己資本比率は65.8%となりました。

その主な増加要因は、利益剰余金について、配当により22百万円減少した一方、親会社株主に帰属する四半期純利益を29百万円計上したことによるものです。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、2024年1月12日の「2023年11月期 決算短信」で公表いたしました通期の連結業績予想に変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年11月30日)	当第1四半期連結会計期間 (2024年2月29日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	2,902,549	2,556,702
売掛金	808,015	857,021
有価証券	99,996	99,996
商品及び製品	267,591	148,084
仕掛品	4,240	4,810
原材料及び貯蔵品	5,936	6,912
その他	204,637	170,601
貸倒引当金	△136	△144
流動資産合計	4,292,829	3,843,984
固定資産		
有形固定資産	167,946	165,462
無形固定資産		
ソフトウェア	242,946	226,128
ソフトウェア仮勘定	275,142	344,052
無形固定資産合計	518,089	570,180
投資その他の資産		
その他	730,904	759,072
貸倒引当金	△140,812	△140,230
投資その他の資産合計	590,091	618,842
固定資産合計	1,276,126	1,354,485
資産合計	5,568,956	5,198,469
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	539,564	281,445
短期借入金	50,000	50,000
1年内返済予定の長期借入金	299,169	286,668
未払法人税等	30,154	31,261
賞与引当金	—	45,848
その他	414,170	315,254
流動負債合計	1,333,059	1,010,478
固定負債		
長期借入金	489,969	422,466
退職給付に係る負債	298,622	301,058
資産除去債務	31,862	31,941
関係会社事業損失引当金	4,447	4,447
その他	6,412	5,396
固定負債合計	831,313	765,309
負債合計	2,164,373	1,775,788

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年11月30日)	当第1四半期連結会計期間 (2024年2月29日)
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	2,721,514	2,721,514
資本剰余金	618,777	618,777
利益剰余金	53,478	60,435
自己株式	△557	△557
株主資本合計	3,393,212	3,400,169
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△1,719	9,338
退職給付に係る調整累計額	13,090	13,173
その他の包括利益累計額合計	11,371	22,512
純資産合計	3,404,583	3,422,681
負債純資産合計	5,568,956	5,198,469

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2022年12月1日 至 2023年2月28日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2023年12月1日 至 2024年2月29日)
売上高	1,071,506	1,280,048
売上原価	685,175	795,708
売上総利益	386,331	484,340
販売費及び一般管理費	410,963	432,978
営業利益又は営業損失(△)	△24,631	51,361
営業外収益		
受取利息	530	548
受取配当金	550	660
その他	80	50
営業外収益合計	1,160	1,258
営業外費用		
支払利息	2,030	1,378
その他	24	24
営業外費用合計	2,054	1,403
経常利益又は経常損失(△)	△25,526	51,217
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△25,526	51,217
法人税等	△7,449	22,138
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△18,076	29,079
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△18,076	29,079



(四半期連結包括利益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2022年12月1日 至 2023年2月28日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2023年12月1日 至 2024年2月29日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△18,076	29,079
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	919	11,058
退職給付に係る調整額	374	82
その他の包括利益合計	1,293	11,140
四半期包括利益	△16,782	40,220
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△16,782	40,220

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

I 前第1四半期連結累計期間(自 2022年12月1日 至 2023年2月28日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2023年2月22日 定時株主総会	普通株式	22,122	5.00	2022年 11月30日	2023年 2月24日	利益剰余金

2. 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

II 当第1四半期連結累計期間(自 2023年12月1日 至 2024年2月29日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2024年2月27日 定時株主総会	普通株式	22,122	5.00	2023年 11月30日	2024年 2月28日	利益剰余金

2. 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

税金費用の計算

税金費用については、当第1四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益又は税引前四半期純損失に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

ただし、当該見積実効税率を用いて税金費用を計算すると著しく合理性を欠く結果となる場合には、法定実効税率を使用する方法によっております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自 2022年12月1日 至 2023年2月28日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	オペレーション 支援事業	農業支援事業	合計	調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
売上高					
顧客との契約から生 じる収益	731,237	340,269	1,071,506	—	1,071,506
外部顧客への売上高	731,237	340,269	1,071,506	—	1,071,506
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	20	20	△20	—
計	731,237	340,290	1,071,527	△20	1,071,506
セグメント利益又は 損失(△)	223,939	△21,105	202,834	△227,466	△24,631

(注) 1 セグメント利益又は損失の調整額△227,466千円には、セグメント間取引消去341千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△227,807千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない販売費及び一般管理費であります。

2 セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第1四半期連結累計期間(自 2023年12月1日 至 2024年2月29日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	オペレーション 支援事業	農業支援事業	合計	調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
売上高					
顧客との契約から生 じる収益	839,046	441,002	1,280,048	—	1,280,048
外部顧客への売上高	839,046	441,002	1,280,048	—	1,280,048
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	839,046	441,002	1,280,048	—	1,280,048
セグメント利益又は 損失(△)	281,203	△5,538	275,664	△224,302	51,361

(注) 1 セグメント利益又は損失の調整額△224,302千円には、セグメント間取引消去374千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△224,677千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない販売費及び一般管理費であります。

2 セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報は、「注記事項(セグメント情報等)」に記載のとおりであります。